

令和2年度きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会 (西牟婁の部)

1. 日 時 令和3年1月28日(木) 13時30分~16時30分
2. 場 所 上富田文化会館 2階小ホール
3. 参加者 市町教育委員会指導主事・社会教育主事、教職員、
CS推進員、学校運営協議会関係者 合計18名



4. ねらいと成果・課題

(1) ねらい

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の理解を深め、持続可能な「きのくにコミュニティスクール」の仕組みづくりにつなげる。

(2) 成果

- ・各地域で実践されてきた地域学校協働活動と、導入されたばかりの学校運営協議会を一体的に推進することによって、大人の行動が意識化され、教育的効果が高まることを理解することができた。
- ・各社会教育関係団体の活動内容を整理し、学校運営協議会や地域学校協働活動と結びつけていくことで地域の当事者意識が高まることを理解できた。
- ・学校と地域の「連携・協働」を目的にするか、手段にするかによって、成果に差が出てくることを学び、事業の趣旨目的を再確認する機会となった。

(3) 課題

- ・教育委員会(事務局)内でも、めざす子供の姿について社会教育と学校教育の方向性を合わせていく必要がある。
- ・学校運営協議会の本来の姿に近づいていくために、「話し合い」の必要性を認識し、その時間を確保していく必要がある。
- ・「何かをする」という連携・協働から、「なぜするか」の連携・協働へと発展していくための支援や研修が今後も必要である。

5. 研修内容

◆西牟婁地方の社会教育・学校教育の連携協働状況について

<発表者> 紀南教育事務所 社会教育主事 福田 勝也

○各市町の状況

- ・4市町(田辺市・白浜町・上富田町・すさみ町)で、学校数、児童生徒数などに違いはあるが、学校と地域が連携した取組は既に実施されてきている。
- ・受益者として参加していた児童生徒が大人になり、提供する側として関わっている社会教育事業が多く見られる地域である。
- ・それ故に「すでにつながりは出来ているのに、今さらなぜ」という意識が学校教育にも社会教育にも潜在していないか。

○まとめに代えて(各市町から提供いただいた事例について)

- ・実施要項の「趣旨」には何が書かれているか。
 - ・事業開始の背景には、どういう課題があったのか。
 - ・事業の「成果と課題」とは、どこを見ればよいのか。
- 行政の担当者は、早ければ1年で代わっていく。事業を引き継ぐ際に重要なことは何か。

○新谷マイスターへの質問

- ・ どうして CS マイスターになったのか。
- ・ 学校教育と社会教育の間に「カベ」は存在するのか。
- ・ どうなった時に、学校教育と社会教育が「一体になった」といえるのか。

◆講演（オンライン開催）

「地域に開かれた学校から地域とともにある学校へ ～担い手が担い手を～
<講師> 文部科学省CSマイスター

岐阜県白川村教育委員会事務局社会教育主事 新谷 さゆり 氏

○コミュニティ・スクールの全国的な状況について

- ・ 全国では、27.2%がコミュニティ・スクールを導入。
- ・ 和歌山県は、コミュニティ・スクール導入率 97.7%。
地域学校協働本部整備率 90.7%



○なぜ今 学校・家庭・地域の協働が必要なのか

- ・ 変化の激しい社会に必要な生きる力を育むため。
- ・ 予測困難な未来とは実は・・・「何でもチャレンジできる未来」。

○もうすでに「つながり」は出来ているのに、なぜ今更・・・

- ・ 「無意識」を「意識化」するため。
- ・ 活動は今のままでいい。その活動に「何のため？（目的）」を明確にした「ひと工夫」を加えることをお薦め。

○何をどう進めれば良いのか。何から始めれば良いのか。

- ・ まずは「共通の願い」をもつことからスタート。
- ・ 「何をやる？」と活動内容を一番に考えがちだが、「何のため？」を関係者で話し合い共通の願いを持つことが大切。
- ・ その手立てとして学校運営協議会を活用する。協議会は目的ではなく、手立て。

○地域全体の当事者意識を高めるために

- ・ 既存の社会教育団体とつながる。
- ・ 各団体はそれぞれに価値のある活動をしている。しかし、活動や行事が目的となっており、めざす方向が曖昧であることも否定できない。
- ・ めざす方向（願い）を明確にするための、「社会教育推進会議」の開催。新しいつながりによって子供への関わり方が多様化した。

○白川村がめざす「担い手像」とは

- ・ 帰村する子が担い手、ということではない。
- ・ 離れていても村のために出来る貢献はある。
- ・ 帰村は「目的」ではなく、「手段」である。
- ・ ふるさとの熱い思いを胸に、村に貢献できる「ひと」。



○地域と学校がつながることとは

- ・ 「つながる」ことが目的であれば、「たくさんの活動ができた」「たくさんの方が学校に足を運んでくれた」という評価で終わる。

- ・「つながる」ことはあくまで手段で、目的が「村の担い手を育てること」であれば、「子供たちは担い手となる姿に近づけたか」「担い手育てに必要なつながりであったか」という評価に変わる。
- ・それに伴って、地域の大人の意識が変化するようになる。



○新谷マイスターへの質問への回答

- ・ どうしてCSマイスターになったのか。
コミュニティ・スクールを推進していく中で、文部科学省では当初、学校教育のセクションが担当していた。「社会教育主事」がコミュニティ・スクールを推進している事例は珍しいということで、依頼があった。
- ・ 社会教育と学校教育の間に「カベ」は存在するのか。
それぞれがそれぞれの事業を行っているうちは、「カベ」は存在しない。お互いが必要になった時に初めて、「カベ」を意識するようになる。社会教育と学校教育のベクトルの先にある「めざす姿」が揃ってくると、「カベ」は低くなっていく。
- ・ どうなった時に社会教育と学校教育が「一体になった」といえるのか。
ベクトルの先が揃い、共通の願いでの達成感や充実感を得られたときではないか。

◆協議

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進のために」
(オンライン協議となったため、「キーワードの共有」と「質疑応答」に変更)

○参加者からの質問内容

Q 白川郷学園の目標であるハイブリッドシステムとは何か？

A 文字通り、2つの動力で学園が動いていくということ。村の担い手となる姿に育てていくにあたって、学校教職員の動力が必要な場面、地域の大人の動力が必要な場面があり、調整しながらやっていくということ。



Q 熟議の時間は必要だと思うが、学校の業務との調整はどのようにしているのか？

A 熟議がうまく出来なかった時期もある。その時期は活動の目的が曖昧になり、関係性がぎくしゃくしたこともあった。今は、あらかじめ熟議を年間計画に位置づけている。遅くとも夜9時までには終わるようにしている。

Q どのようにして、若い人にも関わってもらっているのか？

A 運営協議会の部会である、学校支援部が学年コーディネーター（2名）に若い人を選定している。コーディネーターが若くなることで、そこからつながる地域の方も若くなっている。



○閉会

- ・ きのくにコミュニティスクールを推進するにあたり、「手段」と「目的」が入れ替わらないように常に気を付ける必要があることを再確認できた。
- ・ 岐阜県に緊急事態宣言が出されている中で、Zoom を使った研修の一部変更したが、研修を行うことが目的ではなく、趣旨にある「理解が深まったか」「持続可能な仕組みづくりにつながったか」をしっかりと検証していきたい。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)に関する研修会アンケート【集計結果】

研修会名	きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会(西牟婁の部)
研修実施団体名	和歌山県教育庁紀南教育事務所
研修実施日	令和3年1月28日(木)
CSマイスター等	新谷さゆり 氏

1. 所属、職種の状況について当てはまるものに○をつけてください。

1.教職員	7
2.CS推進員	1
3.教育委員会事務局(学校教育)職員	2
4.教育委員会(社会教育)職員	3
5.学校運営協議会委員	1
6.公民館職員	2
7.その他	0

アンケート回収数
16 名

2. 本日の研修会に参加する前の状況で、もっとも近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

	大いに認識していた	おおむね認識していた	あまり認識していなかった	認識していなかった
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)についての課題を明確に認識していた。	3	11	1	1

3. 本日の研修会に参加してもっとも近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

	大いに参考になった	おおむね参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
新谷マイスターの講演について	12	4	0	0

	大いにそう思う	おおむねそう思う	あまり思わない	思わない
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進についての展望が開けましたか。	3	12	1	0

4. コミュニティ・スクールに関わる取組を進めるに当たって課題となっていることについて当てはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでもかまいません)

		割合
①教職員、地域、保護者にあまり知られていない	13	81%
②地域と学校の協議が不十分である	8	50%
③委員やボランティア人材の確保ができない	9	56%
④活動費や委員報酬の支払いなど財政的な懸念がある	3	19%
⑤教職員の勤務負担が増加する	9	56%
⑥学校の持つ課題を公表してしまう懸念がある。	0	0%
⑦地域とのトラブルや守秘義務等に懸念がある	1	6%
⑧その他()	0	0%

5. 御感想、御提案などがありましたら御記入ください。

- ・コミュニティ・スクールに関してあまり理解していませんでした。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・Zoomの勉強にもなりました。
- ・たくさんの情報をいただき、聞けて良かった。自分の学校と照らし合わせて、まず出来ることは何か、もう一度考え、実践してみたいと思う。
- ・白川村の良い取組を聞かせてもらい、大変参考になりました。
- ・和歌山県(田辺市)以外のコミスクの取組について、詳しく学ぶことが出来て大変勉強になりました。職場に広めたいと思います。また、今回の研修会の内容がとても良かったです。オンラインでの研修、少人数でのテーブルのない会場…。これがかえってとても良かったと思います。いつもにないあたたかな雰囲気での研修会でした。企画していただきありがとうございました。
- ・今日の講演は大変良かったです。今まで地域と連携して取り組むことは多くありましたが、その目的を明確にすることが大切だと思いました。Zoomによる研修も良かったです。
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。運営ご苦労さまでした。
- ・急遽オンラインになり、運営された方々もご苦労なされたことが分かりました。オンラインが色々な事を便利にさせた反面、初期段階では多くの不安が生まれることは、非常に共感できました。さて、今回の研修はコミュニティスクール、学社融合推進協議会を進めるうえで、充実のための指針が多くあったと思います。ハイブリッド、同じ方向を見たベクトルなど、学校と地域が正しく理解し、子供を育て、担い手を育て、田舎の地域課題の解決の一助になることを期待します。
- ・大変素晴らしい研修会でした。新谷さんから今後の実践に結びつく「ヒント」を沢山もらいました。
- ・とても力を与えられた研修会でした。コミスクは、人であり、想いが基になると思います。共通の願いを持つことで、人が動き、子供の力を伸ばす組織となるのだろうと思いました。
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・学校で何かさせて欲しい時は、1人もしくは数人で企画して、直接学校に伝えた方が実現でき、会議などの大人数の場での提案は、実現しにくいように思います。ただ、そういう人や少人数の団体がたくさん直接提案したら、学校は大変だと思います。そのつなぎとして、コーディネーターをはさみ、車の保険のように直接言いにくいことを伝えてもらったり(例えば、その内容はやめてほしいなど)、コーディネーターと時間をかけて打合せをしたりして、学校側の要望からあまり外れない内容の提案が、実現したらいいのかなと思いました。提案することが、学校の負担になっていないかが気になっています。
- ・今まで参加したコミュニティスクールの研修会の中で一番勉強になりました。参考にさせていただきながら、少しでも近づけるように精進していきたいと思います。

